

たばこ一本百七十万円 ストーブ一台三百八十万円

火災による
損害額です

56年版
消防白書から

昭和五十五年中に起きた火災のうち、損害総額のいちばん大きいのは、たばこによるもの。たばこによる火災一件あたり、約百七十万円相当の財産が灰になった勘定になります。

第二位がストーブによる火災。損害総額ではたばこに「一位」の座を譲っているものの、一件あたりの損害額では断然トップ。一件あたり約三百八十万円相当の財産が「燃料」にされてしまいました。

昭和五十五年中には、全国で一時間にほぼ七件の割合で火災が発



生していますが、これを出火原因別に見ると、たばこ、火あそび、

気をつけよう「豆炭アンカ」

使い方により着火!

八日市場市外三町消防組合消防署では、豆炭アンカによる着火の実験を行いました。

これによると「家庭で使われている豆炭アンカを毛布でくるみ二十四時間放置したところ、毛布は黒くやけど、このままにすれば、中できすぶり続け、空気にふれた時に着火したでしょう」とのこと。使い方にくれぐれもご注意ください。

たきびの順に多く、ストーブは七番目です。ところが、わたしたちの財産を灰にしてしまう「効率」という点では、ストーブは他を圧倒していると言えます。

これは、ストーブが家財道具の集中した部屋で使われるためともいえますが、最大の原因は、火災が起こった場合の炎が大きく、初期消火が難しいという点にあります。

ストーブはわたしたちに「ぬくもり」を与えると同時に、財産や生命を奪うこととなる危険性も秘めています。家や家財道具ならあきらめもつきませんが、命を燃やされてはたまりません。ストーブに

- は、くれぐれもご注意ください。
- ストーブは怖い——とはいっても、正しく使いさえすれば、ただの暖房器具。使うときは、次の点に気をつけましょう。
- 1、取扱上の注意事項など、説明書をよく読む。
 - 2、周囲は常に整頓し、燃えやすいものは置かない。
 - 3、部屋の出入口や通路などで使わない。
 - 4、近くに洗濯物を干したりしない。
 - 5、ベンジン、ヘアスプレーなど揮発性のものをそばで使わない。
 - 6、火のついたまま、持ち運ぶようなことはしない。
 - 7、外出するとき、寝るときは必ず火を消す。
- さらに、ストーブの種類に応じて、次の注意も必要です。
- 石油ストーブ：燃料の補給などは、必ず火を消してからにする。
 - 電気ストーブ：使わない時、外出するときなどは、必ずコンセントを抜く。
 - ガスストーブ：ゴムホースには耐圧ホースを用いるとともに、なるべく短いもので済むように、できるだけ元栓の近くで使うようにする。また、ホースのひび割れに注意する。

2月28日～3月13日

春の全国火災予防運動

毎日が防火デーです ぼくの家

